

(第1回 午前)

2026(令和8)年度入学試験問題

国 語

(試験時間：50分)

《注 意》

- (1) 問題は ～ まであります。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
- (4) 解答用紙のみ回収します。
- (5) 解答に際して、句読点、符号などが含まれる場合には一字分として数えます。

城西大学附属
城西中学校

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

お互い人間は、どこかの離れ小島でたった一人で生きているというのではなく、ふつうみなが相寄って、集団生活、共同生活というものを イトナ^aんでいます。その共同生活をイトナんでいく上で大切なことはいろいろありましようが、中でも最も大切なことの一つは、お互いがともどもによりよく生きていく、ということではないでしょうか。そしてそのために大切なことの一つに、寛容^{かんよう} ということがあるのではないかと思います。

共同生活にはいろいろな人がいます。背の高い人もいれば低い人もいます。声の大きい人もいれば小さい人もいるでしょう。いろいろな性格、考え方の持ち主が 一緒^{いっしょ}にいるわけです。したがって、もし背の高い人が低い人に対して、「背が低いのはけしからん。消えてなくなれ」というようなことをいったとするならば、背の低い人たちはみな怒るでしょう。しかし、いたたまれなくなつてどこかへ行こうと思つても、結局、共同生活から出ていけば生きていくことはできません。だから、背の高い人が低い人の存在を認めないようなことがあれば、両者の間に争いもおこり、お互いの不幸な姿も生まれかねないでしょう。もちろん実際にはこういったことはあり得ないことかもしれませんが、しかしたとえば思想や宗教、あるいは人種的な サベツ^b という面では、往々^{*2}にしておこりかねないことだといえましよう。

また、お互い人間一人ひとりは、それぞれに個性というか持ち味を異にしていますが、そのどれもが 尊^cく、また共同生活の向上のために有用なものではないかと思ひます。つまり、一人ひとりのそれぞれの持ち味が十分に 發揮¹され生かされていくところから、共同生活の向上というものがもたらされてくるのだと思ひます。だから 大切なことは、たとえ何らかの点で自分の気に入らないというような人がいたとしても、けしからん、消えてなくなれというのではなく、その存在を認めて、そしてともどもに和やかにやっついていくようにしていく、ということでしょう。またそうしてこそ、一人ひとりがそれぞれの持ち味を自由に伸び伸びと發揮することもでき、よりよき共同生活を実現していくこともできるようになると思うのです。

寛容とは、広い心をもつて、よく人を許し入れるということです。また人のあやまちに対して、きびしく² とがめだて² しないということです。したがって、よくないことをした人に対し

て、善意^dをもってそのあやまちを正すということはしたとしても、よくないことをしたからといってその人を憎み、その存在を許さない、というようなことはしないということです。それでは寛容ということにはならないだろうと思われれます。

Ⅰ、お互い人間というものは、とかく自分のあやまりには気づかなかったり、それを弁解したりしても、人の罪は許すことができない、というような傾向が一面にあるようです。だから人が悪いことをすれば、すぐ非難したり責めたりする。なかなか寛容な態度をとることができないというわけです。しかし、だからといって、お互いに相手の非を数えたてて非難しあっても、それによつてよりよい姿が生まれてくるとは限りません。Ⅱ 互いにいがみあい、争いあうというようなことにもなつて、かえつて好ましくない姿にも陥^{おちい}りかねないのではないのでしょうか。

③ そういうことを考えますと、やはりお互いに相手を許しいれるという寛容の心を養つていくことが大切ではないかと思ひます。お互いが広い寛容の心もちあうならば、たとえ相手に少しくらい非があつても、それをあたたかく許し、また自分の非も許されるということにもなつて、ともどもに安らかに。クラ^eらしていくこともできやすくなるでしょう。

そしてそういう姿からは、お互いが安心して伸び伸びと交わり、それぞれの持ち味を十二分に發揮して活動し、生活をイトナんでいくこともスムーズにできるようになるのではないかと思われれます。

④ それでは、そういった好ましい寛容の心はいつどこから生まれてくるのかといひますと、それはやはり素直な心から生まれてくるものだと思います。つまり、素直な心というものになれば、おのずとそういう寛容の心があらわれてくるのではないかと思うのです。

素直な心は万物^{※3}万人^{※3}いっさいの本当の姿をとらわれなく見つめ、これをともどもに正しく生かそうとする心です。Ⅲ、素直な心になれば万物万人^{※3}いっさいのそれぞれの良さとか意義というか、価値、長所、そういったものが明らかになるわけです。そしてそのように万物万人^{※3}いっさいの良さを見ていけば、全く無用のものというか、排除すべきものは何もないことがわかってきます。だからもし仮に、これまでの通念^{※4}から見て好ましくないからざるような姿があつたとしても、その良さを見、それを生かしていこうと考えれば、それなりの意義というも

のがわかってきます。だからあえてそれを否定し排除するようなことはせず、寛容の心をもって処していくというわけです。

このように、素直な心になれば、万物万人いっさいを許しいれる広い寛容の心というものがあらわれてくるのではないかと思われれます。

(松下幸之助『素直な心になるために』)

※1 いたたまれない：そこにじっとしてられない。

※2 往々にして：ある事柄がよく起こる、または繰り返し起こる様子。

※3 万物万人いっさい：すべてのもの、すべての人間、すべて。

※4 通念：一般に共通した考え。

問一 ―― 部 a、e のカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 ―― 部 ①、②の意味としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 発揮

ア 内部にたまったものが外部へ散らばって出ること。

イ 内面的なものを、外面的なものとしてとらえること。

ウ これまでのできごとが積み重なり物事が起こること。

エ もっている能力や特性などを十分に働かせること。

② とがめだて

ア 自分の考えが行きづまってゆとりがなくなること。

イ 相手を信用できず、自分をせめてしまうこと。

ウ 欠点やまちがいを必要以上に強く指してせめること。

エ 周りの何もかもが疑わしく思えてくること。

問三 —— 部①「もし背の高い人が低い人に対して、『背が低いのはけしからん。消えてくなれ』というようなことをいったとするならば、背の低い人たちはみな怒るでしょう」とありますが、この例が示されている理由としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 身体的特徴の優劣ゆうれつを説明するため。

イ サベツが現実には起こらないことを示すため。

ウ 集団生活の不便さを強調するため。

エ 存在を認めないことが争いを生むことを示すため。

問四 —— 部②「大切なことは、たとえ何らかの点で自分の気に入らないというような人がいたとしても、けしからん、消えてなくなれというのではなく、その存在を認めて、そしてともどもに和やかにやっていくようにしていく、ということでしょう」とありますが、なぜ「存在を認め」ることが大切のですか。本文の言葉を用いて七十字以内で説明しなさい。

問五 空らん

I

Ⅲ

 にあてはまる言葉としてふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。同じ記号は二度選べません。

ア むしろ イ では ウ けれども エ したがって

問六 —— 部③「そういうこと」とありますが、どういうことを指していますか。もっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 人というものはまず相手のことを非難してしまうものであるということ。

イ 人間は自分のあやまりにはなかなか気づかないということ。

ウ 人には他人のあやまりや罪を許しにくい傾向があるということ。

エ 人間は相手を許し入れる寛容の心を養っていくべきだということ。

問七 —— 部④「それでは、そういった好ましい寛容の心はいつどこから生まれてくるのかといいますと、それはやはり素直な心から生まれてくるものだと思います」とありますが、それはなぜですか。「素直な心になれば」に続く形で、本文中の言葉を使って五十字以内で説明しなさい。

問八 次の会話文の —— 部①②③が本文の筆者の考えと同じ場合は○、ちがう場合は×と答えなさい。ただし、すべて同じ記号を解答することは認めません。

Aさん：「最近、学校でみんなと仲良くやるためにはどうすればいいか、考えていたんだ。やっぱり、^①人それぞれちがうから、意見が合わなくてもお互いを尊重することが大切だと思う。」

Bさん：「うん。でも、たとえば、^②悪いことをしている人がいたら、簡単に許しちゃいけないんじゃない？ 悪いことをする人は許せないし、厳しく注意して直させないと、悪いことはなくならないと思うよ。」

Aさん：「確かに悪いことをしていたら見過ごせないよね。でも、注意して気づいてくれたら、それでいいんじゃないかな。」

Cさん：「僕は、小学校のとき、友達に注意されたことがいやでけんかしたことがあったけど、その後お互いに気持ちを伝え合ったら、仲直りできたんだよね。だから僕は、^③素直に受け止める姿勢があれば、お互いのちがいを理解して許し合えるんじゃないかと思う。」

問九 次の文について、筆者の考えにあわないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人はみなそれぞれちがった持ち味をもっている。
- イ 他人の非を受け入れることが、共同生活には大切だ。
- ウ 好ましくない人は、共同生活から追い出されてもしかたがない。
- エ 自分の非も認め合い、素直な心を育てることが大切である。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

夏休みの調べ学習で戦争のことを調べている中学二年生の宮原は特攻隊とっこうたいの遺書を見て、遺書を書いた青年の気持ちに思いを馳はせていた。同級生の加納かのうも特攻隊の遺書の文字をなぞるように読んでいた。

『育てて頂いた御恩ごおんを返すことなく……』

御恩、という文字を、細い指が二度撫なでる。

「……宮原くんは、恩返しできてないことって、ある？」

またも唐突とうとつな問いかけに、俺は大きく瞬まばたきをした。

すると彼女はふつと息を吐はいて、それから目を伏ふせた。なにかの痛みに耐たえるかのように、なにかを悔くやんでいるかのように、きつく唇くちびるを噛かむ。

「前にね、すぐくお世話になった人たちがいたの。ちょっと事情があつて、そのとき私は住むところもなにもなかったんだけど、親切な人たちでね、見ず知らずの私に世話を焼やいてくれて、家に住ませてくれたりご飯を食べさせてくれたり、当たり前のように受け入れてくれて、本当に優しくしてもらった」

住むところがなかったって、どういうことだろう。もしかして、家出でもしたのでらうか。

「でもね……」

① 加納さんの声が震ふるえているように聞こえる。

「その人たちとはもう……会えなくなっちゃって。二度と会えなくなっちゃって……なんにも恩返しできなかった。お礼すらちゃんと言えてないのに、急に別れなきゃいけなくなったの。それが、ずっと心に引ひつ掛かかって、すごく後悔こうかいしてて……」

とても苦しそうだった。

もしかしたら、その優しくしてくれた人たちは、亡なくなってしまったのかもしれない。受けた恩を返せないまま、感謝の気持ちを伝える時間もなく、突然とつぜん会えなくなってしまった。どんなにつらいだろう。

② 俺も似たような経験をしたことがあった。小学六年生のときのことだ。じいちゃんが倒れて救急車で運ばれたと連絡が来て、父さんたちと三人で急いで病院に行ったらけれど、すでに意識はなく、たくさんの管につながれて眠っていた。そのまま一度も目覚めることなく、一週間後に息を引き取ってしまった。

《 中 略 》

もう二度と会えなくなるなんて思ってもみなかった。もっと長生きしてくれると思ってた。あんなふうに突然死んでしまうなんて予想もしていなかった。

あのとときの苦い気持ちが甦よみがえってきて、俺は膝の上できつく拳こぶしを握りしめ、ぐっと唇を噛かんだ。

加納さんもきつと同じ気持ちなんだ、と思う。この、思い出すたび息が苦しくなって吐きそうなほどの後悔。

どうにか慰なぐさめたくて、励はげましたくて、頭の中をかき回し、なにかないかと必死に探す。そして、落ち込んでいた俺の気持ちを浮上させてくれた、ある言葉を思い出した。

「……前の学校の、部活の顧問こもんが教えてくれたんだけどさ」
彼女が顔を上げて、少し訝いぶかしげな表情を浮かべる。突然まったく違う話ちがを始めたように聞こえるのだろうか？ 気がついて、急いで続けた。

「『恩送り』って言葉があるんだって」

「恩送り？ 恩返しじゃなくて？」

彼女が首を傾かしげる。俺は「そう」と頷うなずいた。

じいちゃんに可愛がってもらっていたのになんの恩返しもできなかった、と悔くやむ俺に、先生が教えてくれたのだ。『X』と。

「恩をもらったなら、それを次の人に送るって意味なんだって」

「次の人に送る……？」

「そう。もらった恩を、次に送る」

少しでも分かりやすくしようと、俺は右から受け取り、左へと渡すような動作をしてみせた。

「恩を返すのが恩返し、恩を送るのが恩送り」

恩送り、と彼女は繰り返す。確かめるように、嘸みしめるように。

③ 俺は知らず知らずのうちにほほえに微笑んでいた。

「いい言葉だと思わない？ 俺、初めて聞いたとき、すげえ感激したんだ。誰かからもらった優しさを、またほかの人に渡す。自分が優しくされたぶん、ほかの人に優しくする。そうやって恩送りの連鎖れんさができたなら、どんどん優しい世界になっていくだろうなって、なんだか嬉うれしくなった」

加納さんがゆっくりと瞬きをしながら、じつと俺を見つめている、少し照れくさいけれど、
④ 今だけは絶対に目を逸そらしちゃだめだ、と思った。

「だから俺はそれ以来、もちろん恩返しもちろんしなきゃいけないけど、恩送りもしようって思うようになった。もしも恩返しができないときは、そのぶん恩送りに力を入れようって」

《 中 略 》

みんながそうやって恩送りをするようになったら、きっとここはもっと平和で優しくって温かい世界になる。

「たぶん、加納さんに親切にしてくれたその人たちは、恩返ししてほしくて優しくしたわけじゃないんじゃないかな。ただ、目の前で困ってる女の子を放っておけなくて、加納さんを助けたいって思って、なにも見返りなんて求めずにそうしてくれたんだと思う」

⑤ 彼女はまるで瞬きすら忘れたように、大きな目をさらに見開いている。そうかもしれない、と嘸おぼろくように言う声が聞こえた。

「だから、その人たちは『返して』なんて思ってないよ、きっと。あげっぱなしで満足してると思う。だから加納さんはただありがたく受け取って、今度はほかの困ってる人に渡してあげたらいいんじゃないかな」

突然、彼女の目から [A] と涙がこぼれ出した。顔がくしゃりと歪ゆがんで、子どものような泣き顔になる。

俺は驚おどろいて「えっ」と立ち上がり、慌あわてて彼女の隣となりに回まわって、でもどうすればいいか分からずに [B] することしかできない。

「え、え、加納さん、大丈夫!? ごめん、俺、傷つけること言っちゃった? ごめんな、そんなつもりは本当に全然なかったんだけど……」

「ううん、そうじゃないの……」

彼女は何度も首を横よこに振ふる。

「すごく、嬉うれしくて……ほっとして、涙なみだが……」

涙なみだに潤うるんだ声こゑで、彼女が途切とぎれ途切とぎれに言った。傷やつけてしまったわけではないと知あって安堵あんする。

「恩送おんそうり、いい考え方かただね。私、これから、あの人たちに恩返おんかへしできなかつたぶん、ほかの人に優やさしくする……優しい人になれるように頑張がんばる」

「……加納さんは、充じゅう分ぶん優ゆうしいと思うけど……」

花瓶かびん事件じけんを思おもい出でしながら、俺はそう言った。

「加納さんは、優やさしくて、まっすぐで、勇気ゆうきもあつて、すごい人だと思おもう」

彼女は両手りょうてで涙なみだを拭ぬぐいながら、 [C] と首くびを振ふる。

「全然違ちがうよ、まったくそんなことない。私わたしすごく自分勝手自分勝手だし、ひねくれてるし、甘あまえてばかりだった。今は、その人たちのおかげで自分のためなところに気がつけて、変わろうって頑張がんばってるところなの」

少し涙なみだの引ひいた目を、加納さんは空そらに向むけた。

今日けふもきれいに晴はれている。吸すい込まれそうな青あおと、ところどころに清あらかな白しろ。

彼女はいつも空そらを見みている。学校がっこうでも、外そとでも。よっぽど好きなんだろうな、と思おもう。空そらを見み上げているとき、いつもどんなことを考えているのだろう。

私わたしね、と加納さんが眩くらいた。

⑥ 「前はね、別にいつ死しんでもいいし、とか思おもってたの」

俺は思わず息を呑む。彼女がそんなふうには投げやりな考えを持っているようには、俺には少しも思えなかった。

彼女はすっと視線を手元に落とした。七十年前に、理不尽に命の火を消されてしまった人たちの写真。

「でも、戦争のことを知って……生きたいのに生きることを許されなかった人がたくさんいるって知って、そういうのはやめようって思った。それを教えてくれた人たちを失望させない自分になれるように、これから頑張ろうって決めたの」

うん、と俺は頷く。

「そうだね。そうだよな……」

うまく言葉にできない。でも、こんなふうには呑気に生きていられる自分は、本当に幸運なんだと、改めて実感した。

そして俺も、天国から見ていてくれるはずのじいちゃんをあきれさせないように頑張らなきゃ、と思う。

(汐見夏衛『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』)

※1訝しげ… 疑わしく思うようす。

※2花瓶事件… ある日の朝、クラスメイトの席に雑草の生けられた花瓶が置かれ、机に「死」とチョークで書かれてあるのを見つけた加納さんが、それを行った同じクラスの不良たちに対して厳しく注意したことがあった。

問一 空らん A C にあてはまる言葉としてふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア おろおろ イ だらだら ウ ふるふる エ ぼろぼろ

問二 —— 部①「加納さんの声が震えているように聞こえる」とありますが、「加納さんの声が震えてい」たのはなぜですか。次のア、エの中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 以前自分には住むところがなかったことを思い出したから。

イ 以前見ず知らずの自分に親切にしてくれた人がいたことを思い出したから。

ウ 以前親切にしてくれた人に対して何もできていないことを思い出したから。

エ 以前優しくしてくれた人たちがもう亡くなってしまったことを思い出したから。

問三 —— 部②「俺も似たような経験をしたことがあった」とありますが、どのような点が似ているのですか。次のア、エの中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア だれかに親切にされた点。

イ 恩返しをできていない点。

ウ 家出をしたことがある点。

エ 大切な人に会えなくなった点。

問四 空らん

X

に入る言葉としてもっともふさわしいものを次のア、

エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 恩に報いるっていうのは、なにも返すことだけじゃないんだぞ。送ることで報いることもできるんだ

イ 人から受けた恩に報いないのは人として良くないぞ。必ず恩返ししろよ

ウ おじいちゃんから受けた恩のことは、おばあちゃんにお礼を言えばいいじゃないか。

おじいちゃんは亡くなってしまったんだから

エ もっと視野を広げたらどうだ。恩送りの連鎖ができて世界がどんどん優しい世界になっただらすてきだろ

問五 —— 部③「俺は知らず知らずのうちに微笑んでいた」とありますが、このときの「俺」の様子を説明したものとしてもっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 加納さんが自分の話に興味を持ってきていることを感じうれしく思っている。
- イ 加納さんのことを好きな気持ちがかえきれず思わず表情に出てしまっている。
- ウ 加納さんに自分の話を理解してもらいたいと思ひ必死に語りかけている。
- エ 加納さんになんとかして自分の話に興味を持ってもらいたいと思っている。

問六 —— 部④「今だけは絶対に目を逸らしちゃだめだ、と思った」とありますが、それはなぜですか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 加納さんの好意を自分に向けてほしかったから。
- イ 目を逸らしたら負けたことになると思ったから。
- ウ 一生懸命なことを眼差しても伝えなかったから。
- エ 加納さんを見つめ合っていることがうれしかったから。

問七 —— 部⑤「彼女はまるで瞬きすら忘れたように、大きな目をさらに見開いている」とありますが、このときの「彼女」の様子を説明したものとしてもっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分のことを一生懸命なくさめてくれる宮原に好意をもち始めている。
- イ 「恩送り」という今まで考えもしなかった考え方を知り、おどろいている。
- ウ 自分の悩みを「恩送り」という考え方ひとつで解決してくれたことにびっくりしている。
- エ 「恩送り」が世界平和につながるとまで考えている宮原のスケールの大きさに感心している。

問八 —— 部⑥「前はね、別にいつ死んでもいいし、とか思ってたの」とありますが、加納さんがそのような考えを変えたのはなぜですか。八十字以内で答えなさい。

問九 この文章の説明として正しいものには○、まちがっているものには×と答えなさい。た

だし、すべて同じ記号を解答することは認めません。

1 宮原は、祖父に直接お礼を言わなかったことを後悔している。

2 宮原は、部活の顧問の先生から「恩送り」という言葉を教わった。

3 〓部A「俺は膝の上できつく拳を握りしめ、ぐっと唇を噛んだ」という表現は、じいちゃんと突然死に別れなければならなかったくやしさを表している。

4 〓部B「右から受け取り、左へと渡すような動作」は、隠喩いんゆ(暗喩あんゆ)を用いた表現である。

三

次の資料Ⅰ～Ⅲを見ながら、AさんとBさんが会話をしています。後の問いに答えなさい。

Aさん 「城西図書館まつり」は、城西図書館が中心になって開かれる地域の文化イベントだよ。読み聞かせ会や作家の講演会、古本市など、毎年いろいろな催しがあるんだ。町内外から多くの人が訪れているね。

Bさん うん。二〇一七年度からは公式SNSを始めたんだよね。それまでは掲示板やチラシが中心で、情報が届く範囲も限られていたから、来場者数も少なかったよね。

Aさん そうだね。SNSを始めた途端、来場者数は着実に増えているね。SNS投稿回数も同じように i 年度までは右肩上がりだね。

Bさん ただ、二〇二〇年度は他の年と比べて極端に数値が低くなっているね。

Aさん これは感染症の影響で、イベント規模を縮小したからだと聞いているよ。それに加えて、当時は新しいSNSの使い方に慣れておらず、投稿の内容も限られていたらしいよ。

Bさん 「新しいSNSの使い方」ってどういうこと？

Aさん それまでの投稿は文章と写真が中心だったけど、感染症の影響で対面イベントが減ったから、動画配信やライブ告知みたいな、オンライン向けの発信方法を工夫する必要が出てきたんだ。でも二〇二〇年度はまだそうした機能をうまく使いこなせなかったんだよ。

Bさん なるほど。 ii 年度以降、投稿回数が回復傾向にあるのは、「新しいSNSの使い方」に慣れたからなのかな？ ii 年度以降、来場者も急増して満足度も回復傾向にあるね。なぜだろう？

Aさん それは、この年から感染症対策を取りつつ屋外イベントを増やしたのと、SNSで事前にイベントの詳細をこまめに発信するようになったからだと思う。単にSNSへの投稿を増やただけじゃなく、内容の質も影響しているんだ。

Bさん 確かに。二〇二一年度はさらに大きな変化があるね。ここで何があったんだろう。

Aさん 二〇二一年度からSNSでライブ配信を始めたんだ。遠方や外出困難な人でも参加できるようになったのが大きいね。オンライン視聴者しちやうしゃも来場者数に含めたことで、前年と比べて参加人数が大きく跳ね上がったんだ。

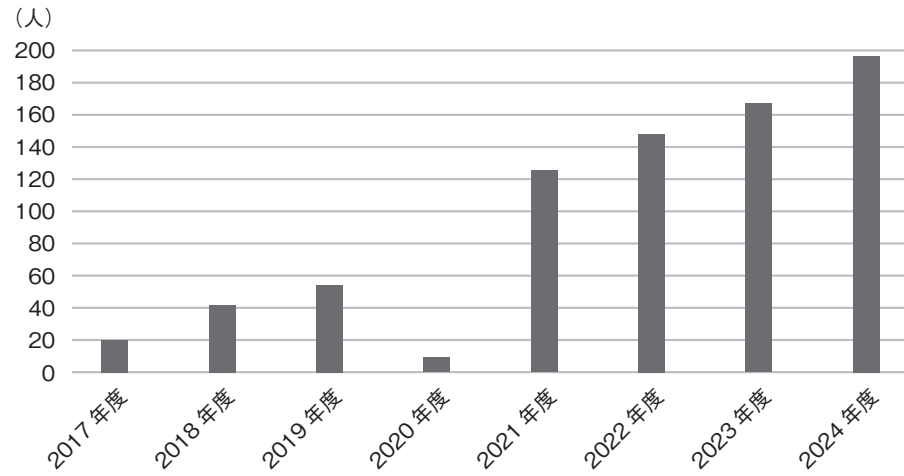
Bさん なるほど。そして iii 年度は全ての項目こうもくで最高値を記録しているね。単純に投稿数と来場者数が比例しているわけじゃないけど、全体として、どちらの数字も同じように増えていることがわかるね。

Bさん そうだね。二〇一九年度と二〇二一年度を比べると、投稿数は I いるのに来場者数は大幅おほはばに II いて、満足度も III なっているんだ。だから「質の高い投稿」が効果的だったといえるかもしれない。

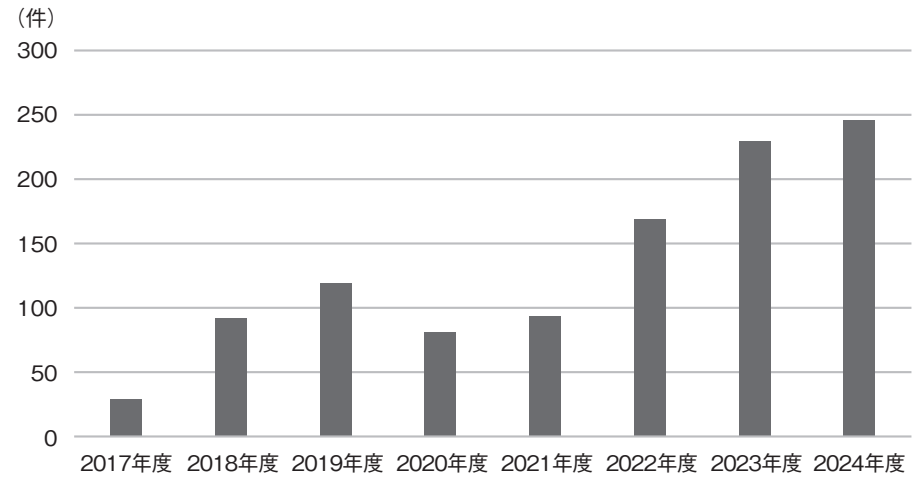
Aさん 結局、IV が、満足度や来場者数の向上につながっているんだと思う。

Bさん このデータを見ると、単に数字の増減を見るだけじゃなく、その背景を考えるのが大事だってわかるね。

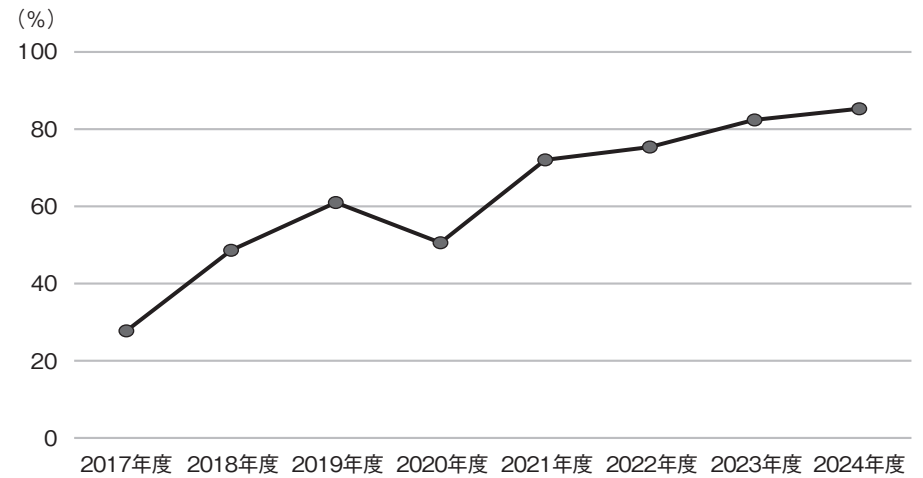
資料Ⅲ イベント来場者数



資料Ⅰ SNS 投稿回数



資料Ⅱ アンケート満足度



問一 空らん にあてはまる西暦を漢数字でそれぞれ書きなさい。

問二 空らん に入る組み合わせとしてもっともふさわしいものを、次のア～

エの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|-------|--------|--------|
| ア | I 減って | II 増えて | III 低く |
| イ | I 減って | II 減って | III 高く |
| ウ | I 増えて | II 減って | III 低く |
| エ | I 減って | II 増えて | III 高く |

問三 空らん に入る文章としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から選び、

記号で答えなさい。

ア オンラインでのイベントを活用し、様々な人々に直接足を運んでもらえるような仕掛けを作ること

イ リアルとオンラインの両方の特性を活かしつつ、SNSでは量だけでなく内容の質を高めること

ウ 「新しいSNSの使い方」をより多くの人が学び、誰であっても活用できるようにすること

エ リアルでのイベントをより充実させ、オンラインに頼らずとも集客ができるようにすること

問四 会話と各資料から読みとれる内容として、正しいものには○、まちがっているものには

×と答えなさい。ただし、すべて同じ記号を解答することは認めません。

a 二〇二一年度の来場者数が急増しているのは、来場者数にオンライン視聴者数も含めたからである。

b 二〇二〇年度のSNS投稿が少なかったのは「新しいSNSの使い方」の問題であり、前年度の半分を下回る数字となっている。

c 八年間のSNS投稿のうち、投稿回数が百件を超えたのは、五回である。

d 八年間のアンケート満足度のうち、六十%を下回っているのは三回のみである。

e 二〇一七年度は、「SNS投稿回数」「アンケート満足度」「イベント来場者数」の全て

の項目で、過去最低を記録している。

